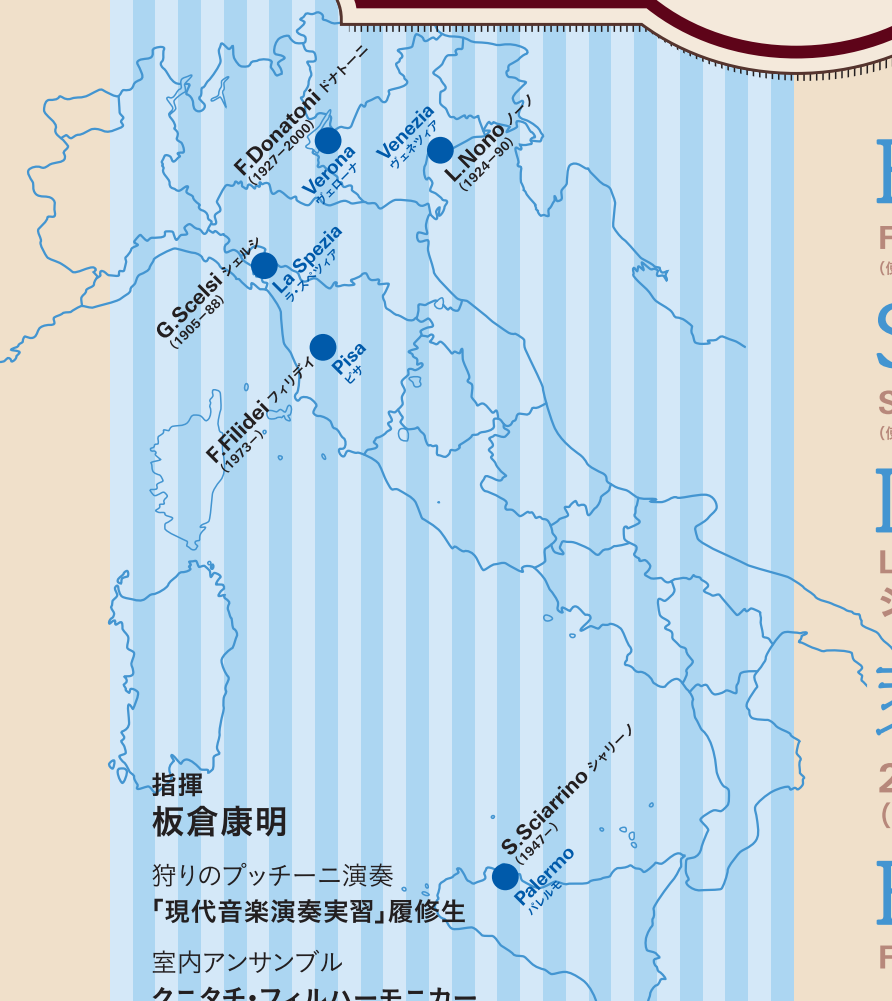


聴き伝わるもの、聴き伝えるもの

— 20世紀音楽から未来に向けて —



現代イタリア音楽の系譜



指揮
板倉康明

狩りのプッチーニ演奏
「現代音楽演奏実習」履修生

室内アンサンブル

クニタチ・フィルハーモニー

佐竹由美(アルト)*、渋谷淑子(ピアノ)**、雲井雅人(サクソ)***

電子音響

国立音楽大学コンピュータ音楽研究室

企画

今村央子、川島素晴

F. Filidei

F.フィリディ●狩りのプッチーニ

(使用譜: Rai Com Music Publishing)

S. Sciarrino

S.シャリーノ●ファノファニア(2010/日本初演)

(使用譜: Rai Com Music Publishing)

L. Nono

L.ノーノ●

ジェルジ・クルターグへのオマージュ*

萊孝之

2018年度国立音楽大学委嘱作品**

(世界初演)

F. Donatoni

F.ドナトーニ●ホット***

G. Scelsi

G.シェルシ●一音による4つの小品

2018年

11月10日[土] 16:00開演 15:30開場
国立音楽大学講堂小ホール

西武拝島線/多摩都市モノレール「玉川上水駅」下車徒歩7分 ※演奏会当日は学生駐車場(大学正門横)をご利用いただけます。

全席自由 一般 1,500円 学生 500円 発売中

※就学前のお子様のご同伴、ご入場はご遠慮ください。

※やむを得ない事情により、曲目・演奏者が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

※入場料収入の一部は本学の奨学制度充実のための資金として、活用させていただきます。

お問合せ▶国立音楽大学演奏センター 042-535-9535

チケットぴあ <http://pia.jp/>
ファミリーマート、セブン-イレブン、チケットぴあ店舗

0570-02-9999 (Pコード121-933)

国立音楽大学書籍売店(宮地楽器) 042-537-8200

宮地楽器ららぽーと立川立飛店 042-540-6636

宮地楽器小金井店ショールーム 042-385-5585

[主催] 国立音楽大学 <http://www.kunitachi.ac.jp/>

[制作] 国立音楽大学演奏センター [協力] 国立音楽大学楽器学資料館

[後援] 日本現代音楽協会、一般社団法人日本作曲家協議会

[助成] 公益財団法人 ロームミュージックファンデーション



第13夜 現代イタリア音楽の系譜

精選された現代作品(聴き伝わるもの)と新作(聴き伝えるもの)により構成される本シリーズは2005年より12公演を行ってきたが、第2回に上演したベリオを除くとイタリア作品が選曲されてこなかった。そこで今回は現代音楽史上欠くべからざる存在であるジェルシ(1905-88 ラ・スペツィア)、ノーノ(1924-90 ヴェネツィア)、ドナトーニ(1927-2000 ヴェローナ)、ジャリーノ(1947- パレルモ)、フィリディ(1973- ピサ)という5名を取り上げ、世代も出身地もスタイルも異なるイタリアの作曲家を巡る相違と関連を探る。

演目最後に据えた《一音による4つの小品》(1959)は、ジェルシが脚光を浴びはじめた1980年代後半以後、音楽史上極めて重要な作品と目されるようになったが、その頃から今日まで日本で上演されていない。その他も全て重要作ながら機会僅少なもののばかり。本学コンピュータ音楽専修の立役者、菜孝之による新作初演も含め、レアな選曲を通じて現代音楽の諸相を体感するひととき、何卒お聴き逃しなく。

企画 川島素晴(国立音楽大学准教授)

PROFILES



作曲 | 菜 孝之 *Rai Takayuki, composer*

作曲を入野義朗、H・ラッヘンマンに師事。桐朋学園大学音楽学部卒業後、ユトレヒト大学ソノロジー研究所においてP・ベルクのもとコンピュータ音楽を学ぶ。1980年よりオランダを拠点に作曲家として活躍。1980年代中頃から、リアルタイム音声信号処理技術を応用したインタラクティブ・コンピュータ音楽創作に取り組んでいる。ガウディウム国際作曲コンクール、国際コンピュータ音楽会議、ISCM「世界音楽の日々」等

びたび入選。ブルジュ国際電子音楽コンクール(フランス)において最優秀賞、国際コンピュータ音楽連盟賞、入野賞等を受賞している。1991年より国立音楽大学、2006年から2013年にかけてランカスター大学(英国)、2014年より桐朋学園大学、2015年より四川音楽学院(中国)において作曲とコンピュータ音楽を指導している。



指揮 | 板倉康明 *Yasuaki Itakura, conductor*

東京藝術大学附属音楽高等学校を経て東京藝術大学音楽学部卒業。フランス政府給費留学生として渡仏し、パリ市立音楽院、パリ国立高等音楽院を卒業。故アンリエット・ピュイグ＝ロジェ氏から深い薫陶を受け、現在の多彩な演奏活動の礎を築いた。クラリネット奏者として東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等と共演。1996年横浜の第三回神奈川芸術フェスティバルで西村朗作品により指揮デビュー。以後、現代作品を中心に、活発な指揮活動を行っている。これまでに、サントリー・サマーフェスティバル、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、オーケストラアンサンブル金沢定期公演、プレゾンス音楽祭(フランス)、ミュージック・フロム・ジャパン

(ニューヨーク)、現代音楽アспект(カーンフランス)等、国内外の音楽祭に招聘されている。指揮者としてのレパートリーは広範囲に渡り、特に現代作品の演奏には各方面から高い評価を得ている。2016年は、ボルドー・アキテーヌ国立管弦楽団定期公演を客演指揮、また、サントリー・サマーフェスティバルのプロデューサーを務め2公演の指揮を行った。2001年より東京シンフォニエッタ音楽監督就任。第18回中島健蔵音楽賞を受賞。1997年度、1999年度、2015年度日本音楽コンクール委員会特別賞を受賞。国立音楽大学客員教授。

「聴き伝わるもの、聴き伝えるもの —20世紀音楽から未来に向けて— 第1夜～第12夜」

第1夜 | 20世紀前半の音楽…

2005年6月21日(火)

シェーンベルク「室内交響曲第1番」、メシアン「異国の鳥たち」、及び、ドビュッシー、ウェーベルン、バルトーク、ヴァレーズの作品

第2夜 | 20世紀後半から21世紀の音楽

2006年10月7日(土)

ベリオ「カーヴで見出す点…」、ライヒ「シティ・ライフ」、及び、リゲティ、ミュライユ、T.マイヤー＝フィービッヒ、福士則夫の作品

第3夜 | アメリカ実験音楽の風景

2007年10月28日(日)

ケージ「アブリペアド・ピアノ協奏曲」、北爪道夫「流れ・II」、及び、アイヴス、ブラウン、クラム、フェルドマン、森垣桂一の作品

第4夜 | ヨーロッパ20世紀音楽の巨匠たち

2008年10月26日(日)

B.A.ツィンマーマン「ユビュ王の晩餐のための音楽」、及び、ストラヴィンスキー、バルトーク、クセナキス、メシアン、藤井喬梓の作品

第5夜 | 音楽と身体～カーゲル追悼(田中泯を迎えて)

2009年10月25日(日)

カーゲル「ディヴェルティメント?」、フェルドマン「Why Patterns?」、及び、ティエリー・デ・メイ、川島素晴、今村央子の作品

第6夜 | 八村義夫とアジア

2011年11月13日(日)

八村義夫「彼岸花の幻想」「星辰譜」「ブリージング・フィールド」、及び、ジュリアン・ユー、尹伊桑、渡辺俊哉の作品

第7夜 | ケージ&ナンカロー生誕100年～現在への射程～

2012年11月10日(土)

ルトスワフスキ「ヴェネツィアの遊び」、リゲティ「ピアノ協奏曲」、及び、ケージ、ナンカロー、山口博史の作品

第8夜 | 日本の協奏的作品の地平

2013年11月9日(土)

武満徹「七つの丘の出来事」、川島素晴「或る森の出来事」、及び、挟間美帆、細川俊夫、北爪道夫の作品

第9夜 | 「音響空間」の世界

2014年11月8日(土)

グリゼー「連作《音響空間》より」、湯浅譲二「演奏詩《呼びかわし》」、及び、T.マイヤー＝フィービッヒの作品

第10夜 | 現代ドイツ音楽と笙の世界

2015年11月7日(土)

ラッヘンマン「ムーヴマン」、細川俊夫「ランドスケープV」、及び、シュネーベル、アレクサンダー・シューベルト、今井慎太郎の作品

第11夜 | 東アジア、東南アジアにおける現代音楽の系譜

2016年11月19日(土)

譚盾「内部奏法ピアノと10楽器のための協奏曲」、一柳慧「札幌」及び、ダオ、馬水龍、K.チャングウィッチュカーン、藤井喬梓の作品

第12夜 | ブーレーズとのレスポンソリウム

2017年11月11日(土)

ブーレーズ「レボン」、ホリガー「詩篇」、メシアン「オルガンの書」より第3曲、第4曲、第6曲、及び、森垣桂一の作品